

ずしし かんきょうかいぎ ニュース

第16号 2007年2月

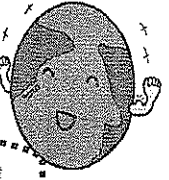
事務局 逗子市環境部環境管理課

逗子市逗子5-2-16

TEL 046-873-1111 内線254

発行 ずしし環境会議 (エコリーダーズ会議)

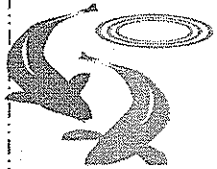
かんきょう連続講演会開催!!



第1回
連続講演会

「はかな調査」から考える田越川

日時：3月4日(日) 13:00~16:00
場所：市役所5階 第6・7・8会議室
講師：相模湾海洋生物研究会
萩原 清司 氏



第2回
連続講演会

わたしたちの生活を脅かしている最近の異常気象のゆくえ

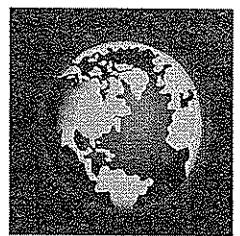
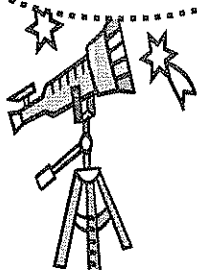
日時：3月17日(土) 14:00~16:00
場所：市役所5階 第6・7・8会議室
講師：足利工業大学教授 総合研究センター長
工学博士 牛山 泉 氏



第3回
連続講演会

素敵な星・地球の物語

日時：3月25日(日) 14:00~16:00
場所：市役所5階 第6・7会議室
講師：生命の星・地球博物館館長
齋藤 靖二 氏



「かんきょう連続講演会」へ参加される方は、当日講演会会場へお越しく下さい。(先着100名)かんきょう連続講演会は連続参加の必要はありません。また、講演会に関して、車でなければ来場できない方やお身体の不自由な方、手話通訳を希望する方は、各回開催日の10日前までに環境管理課へご相談ください。

問合せ：環境部 環境管理課

TEL：046-873-1111 (内線254)

FAX：046-873-4520

E-mail：kankyo@city.zushi.kanagawa.jp

まちなみと緑の創造部会

当部会では、「逗子の自然環境を次世代にどのように伝えるか」をテーマとして活動を続けています。

平成18年度 (財)リバーフロント整備センター「川に学ぶ活動助成対象事業」

田越川さかな調査

少しし環境会議まちなみと緑の創造部会

少しし環境会議まちなみと緑の創造部会では、2005年10月より田越川水系(久木川と池子川を含む)の魚類調査を行いました。この資料はその調査に基づいて作成したものです。

田越川さかな図鑑 (簡易版)

2005年10月22日 発行

発行/編集: 少しし環境会議まちなみと緑の創造部会
協力: 横須賀市自然・人文博物館/伊豆川環境科学センター
HP: <http://www.city.zushi.kanagawa.jp/~nyokan/kankyo/tagogawa/>
問合せ: 逗子市環境管理課 046-873-1111

田越川水系の魚

この他、アユやサケの主目も確認しています。

ハゼの仲間を見分けよう!!

田越川、池子川、久木川にくらすハゼの仲間

A. クロヨシノボリ: 主に上流域にくらします。数は多くありません。
B. トウヨシノボリ: 数はとても少ないです。上流域で確認しています。
C. シマヨシノボリ: 田越川水系全体で一番長く居るハゼの仲間です。
D. ゴクラクハゼ: 下流~中流域にたくさんくらしています。
E. スミウキゴリ: 田越川水系全体にたくさんくらしています。
F. ヌマチチブ: 田越川水系全体にたくさんくらしています。

田越川水系の外來魚

北アメリカ原産のこれらの魚は、人が持ち込んだものです。特に、久木大池、名越溜池に生息数が多く、池にくらす他の魚が減少しています。

これらの魚を放すことは法律で禁止されています。絶対によめましょう!!

『田越川さかな図鑑 (簡易版)』を作成しました!★先着100名 無料配布中★

平成18年度の田越川さかな調査の成果として、『田越川さかな図鑑 (簡易版)』(A3)を作成しました。田越川にくらす多様な生きものの事を少しでも皆さんに知っていただきたいという思いで作りました。一見すると同じように見えるハゼの仲間も、よく見ると顔や形が異なり、田越川の中を棲み分けています。ぜひ、この図鑑を持って、田越川の中をのぞいてみてください!!

現在、逗子市環境管理課で配布中です。直接窓口へお越し下さい!※郵送などはできません。

ウナギ科	ウナギ	
コイ科	コイ	▲
	ギンブナ	
	オイカワ	▲
	アブラハヤ	
	モツゴ	
ドジョウ科	ドジョウ	
アユ科	アユ	
サケ科	サケ	▲
ボラ科	ボラ	
	セスジボラ	
ユゴイ科	ユゴイ	★
サンフッシュ科	ブルーギル(外)	
	オオクチバス(外)	
カタヤシ科	カタヤシ(外)	
メダカ科	ヒメダカ(品)	
ハゼ科	アベハゼ	
	スミウキゴリ	
	ゴクラクハゼ	
	トウヨシノボリ	★
	シマヨシノボリ	
	クロヨシノボリ	
	ヌマチチブ	
	ミミズハゼ	★

←田越川さかな調査で確認された魚 ※河口(渚橋下)でのみ確認された魚は除く
(外)北アメリカ原産で、人が田越川水系に持ち込んだ魚
(品)観賞用の魚で、誰かが田越川水系に放したもの
★: 今回の調査で初めて存在が確認された魚
▲: 本来、田越川に存在しない魚。人為的要因で現在、田越川に分布している。

1年間、田越川の魚を調べることで、少し田越川のことが分かってきたような気がします。3月4日の連続講演会では、多くの方と田越川について、お話したいと思っています。

たくさんのサギ類(アオサギ、コサギ、チュウサギ)が集まるのは、田越川が育む魚が豊富な証です。→

↓田越川水系から居なくなった魚

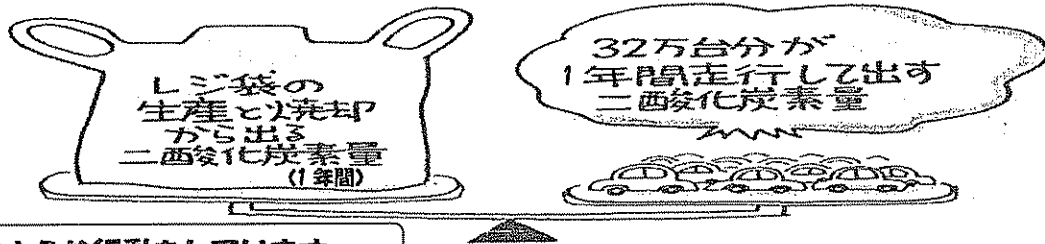
ドジョウ科	ホトケドジョウ
メダカ科	メダカ

田越川産の立派なアユ!

ごみ問題部会

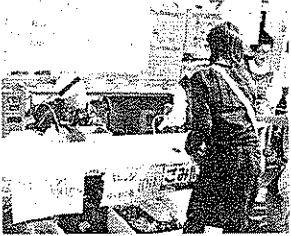
最近の気候温暖化による異常気象は止まることを知らず、いつわが身に降りかかるかと恐怖を感じます。ごみ部会としてもCO₂削減に向けて一層に努力をしていかなくてはと思います。

先日の新聞記事によると、スーパーのイオンでは「レジ袋有料化拡大へ」としてイオン全体でレジ袋50%削減するとCO₂排出量88,000tの削減になるとのことです。そのレジ袋をごみとして燃やすことで増えるCO₂も考えると、マイバック持参という行動一つでも地球環境を左右する要因になることがよくわかります。



私たちは次のような行動をしています

美しい逗子に！
不法投棄ごみ撤去活動をしています。
毎月第2金曜日 13:00~14:00に行っています。



逗子中学校 2年生の生徒さんと一緒に！！
「地域清掃活動」に参加して中学生の素晴らしさを知りました。

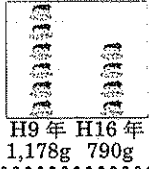
「飲料ビンのデポジット体験」成功！

CO₂削減部会、石井氏のご協力で、キリンビール(株)横浜統括支社より瓶入りウーロン茶・キリンオレンジ合計240本のご寄贈を受け、びんデポジット体験を実施しました。

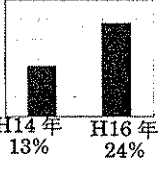
市民にも大変好評で、成功のうちに終わりました。実際に実践できるよう努力していきたいです。

市のごみ減量はどうかってるの？

一人当たりの1日のごみ排出量



資源化率



ごみ減量の知恵 その1

紙、布の資源化・容器包装プラの資源化などの制度改革によって減ってはいますが、年平均3%に過ぎません。温暖化防止はもちろん市の最終処分場の延命のためにも、もっともっと減量していかなくてはなりません。私たちの手でできるごみ減量の一つとして「生ごみの減量」があります。生ごみの水分含有率は平均70~80%です。今、燃やすごみの大半を占める生ごみの水分を減らすことだけでごみ減量に大いに貢献することになります。そこで今回は、生ごみ用“水きりカラット”という優れものを紹介します。

